



図書館インフォメーション



秋の夜長に読みたい本

秋は日が落ちる時間が非常に早く、つまり夜の時間が四季の中で一番長い季節です。気候的にも過ごしやすい秋の夜は読書を楽しむのに向いていると言われています。読書をしたいけどなかなかタイミングがないという人も、この機会にぜひ普段手を出しにくい長編小説やシリーズ作品などを一気に読破！またはあまり読まなかったジャンルの本に挑戦！なんていかがでしょうか。今回は、図書館職員が選ぶ「秋の夜長に読みたい本」をご紹介します。

「散り椿」

葉室麟著 角川書店

「ひとは大切に思うものに会えれば、それだけで幸せだと思っております」そんな言葉が紡ぎだされる歴史小説。藩の不正を正そうとした主人公が藩を追われ、妻と慎ましく生活をしていく中で、体調を崩した妻の最後の願いを叶える為に故郷に戻るところから物語は始まります。一般書・大活字・DVDあり。



「なぜ僕らは働くのか」

池上彰監修 学研プラス

「なぜ人は働くのか?」「生きるってどういうこと?」問われたらあなたはどのように話されますか?本書は「働く」を切り口に生き方全般に関わることが網羅され子どもから大人に向けて説得力ある言葉で語られ心に響きます。進路について、職業について家族で話し合う時、ぜひとも参考にしてほしい一冊です。



「蜜蜂と遠雷」

恩田陸著 幻冬舎

国際ピアノコンクールを舞台に、人間の才能と運命、そして音楽を描いた青春物語。純粋に音楽の魅力を感じる事ができ、読後、幸福感に包まれる一冊です。本書で紹介された楽曲を収録したCDの他、続編に「祝祭と予感」あり。



「すこしずるいパズル」

たつなみ著 アリス館

タイトル通りすこしずるいパズルばかりです。一人の時間や仲間と一緒に、大人も子どももいつとも違うひらめきが必要になります。解った時の「スッキリ感」を楽しんでください。



展示本

南部図書館奥の展示スペースでは、「テレビで話題の料理家のレシピ本」、中高年へ向けた仕事や人生のエール「がんばれおじちゃん&おばちゃん」などをご紹介します。どうぞ読書の秋をお楽しみください。

図書館の予定

・乳幼児リトミック教室

11月10日(水)

午前10時30分～11時30分

講師：佐野貴子先生／長洞まゆ先生

・乳幼児おはなし会 のんたんのへや

11月17日(水)

午前10時30分～11時30分



※各種催し物は、新型コロナウイルス感染予防のため中止になる場合があります。なお、中止の場合はFM告知放送でお知らせします。

町立図書館では、年代別のおすすめ本の紹介などの情報を図書館だよりで配信しています。図書館だよりのバックナンバーは右のQRコードを読み取るとご覧いただけます。



美術館の予定

第2回渡辺修孝絵画展

10月16日(土)～11月7日(日)

◆午前9時30分～5時まで

◆休館日は月曜、11月4日(木)

◆観覧料：無料

当美術館で2回目となる渡辺修孝先生による絵画展を開催いたします。

御年99歳の先生は、この絵画展の期間中に、100歳を迎えられます。年をお召しになられても精力的に活動し、また、ふるさとに思いを寄せて描かれた作品の数々をぜひご覧ください。

皆様のご来場をお待ちしております。





今月の新刊情報



「かぞえきれない星の、その次の星」
重松清著

大切に大好きな相手であればあるほどいまは会えない。
父と娘は、画面越しで会話する。「天の川の兩岸」など夜空にちりばめた11の小さな星たちの物語を収録。



「母親からの小包はなぜこんなにダサイのか」 原田ひ香著

業者から買った野菜を「実家から」と偽る女性。父が毎年受け取っていた小包の謎。そして母から届いた最後の荷物とは。暖かな思いが詰まった6つの物語。

「子のない夫婦とネコ」
群ようこ著

ネコ好きなツヨシとの結婚と同時に子ネコとの生活が始まったモトコ。ふたりは幸せに歳を重ねてきたけれど、ネコも老いていき。「老いとペット」を明るく描いた連作小説。

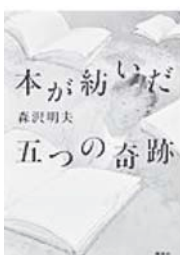


「旅のない」
上田岳弘著

10歳と6歳のボーイズは亀甲柄と市松模様のマスクでやって来た。弟の息子たちを預かることになった夫婦を描いた「ボーイズ」など、コロナ禍中の日々を映す4つの物語。

「本が紡いだ五つの奇跡」
森沢明夫著

仕事がなかなかうまくいかない女性編集者の最後のチャレンジで実現した新作小説。その小説が人々の気持ちを奇跡のように紡いでいく。本に関わった5人の物語。



「月と日の后」
冲方丁著

わずか12歳で一条天皇の後となった藤原道長の娘・彰子。父や夫に照らされる“月”でしかなかった彰子は紫式部にも支えられやがて「国母」として自ら光を放ち出す。

読書にふさわしい季節がやってきました！暑さの日々、なかなか長編小説には気持ちが向かなかった方も多かったのではないのでしょうか？

静かな夜、虫の鳴き声を耳にしながら本の世界に浸るとっておきの時間を作ってみませんか？図書館でぜひ多くの本に出合っていただきたいと思います。



「白光」 朝井まかて著
明治5年、絵師になるため故郷の笠間(茨城)を飛び出した。日本人初のイコン画家・山下りんの波瀾の生涯を力強く描く。



「透明な螺旋」 東野圭吾著
出版と同時にベストセラーとなる東野圭吾のミステリー小説。愛する人を守ることは罪なのか。



「武田信玄入門」 山梨日日新聞社
甲斐の英雄・武田信玄の生涯をルーツや血族・家臣といった取り巻く人々、内外の政治・戦、史跡、さらには現代に活かせる名言などでたどる。『山梨日日新聞』掲載を加筆修正して書籍化。

新着コーナー

館内では、話題本や新刊など利用者の皆様の目に留まりやすいように紹介を心がけています。
ぜひご覧ください！

